

コンサート1回当たりの納税者負担簡易試算

July 11, 2014

参加と合意形成研究会

本試算からの視点

本試算からの視点では、進行中の国立競技場改築計画は、歴史資産、風致地区を未来に手わたさず、毎回3.4億円の未来の税金を、間接的な補助金としてコンサート事業者に手わたす意思決定に相当する行為と推定できる。

本試算の方法

持続可能性の理念（Agedna21に準拠）をデザインの基軸に据えたロンドンオリンピックスタジアムの仕様¹をベンチマーキングして、ザハ案²に対する仮想代替案の仕様を設定した。ザハ案と代替案の機能を差別化する主たる前提は、コンサート対応の有無である。ザハ案はコンサート対応の為、初期投資と修繕費の嵩む

表 コンサート1回当たりの納税者負担の簡易試算

		ザハ案	ロンドン Olympic スタジアム	代替案 ロンドンベンチマーキング	
仕様	収容人員	80000	80000	80000	1)
	延床面積 (㎡)	224,950	108,500	108,500	2)
	客席屋根	○	○	○	
	全体屋根	○	X	X	3)
	免振構造	要	不要	不要	
工事期間 (月)		55	33	40	4)
工事費 (億円)	本体	1,388	635	669	5)
	周辺整備工事	237	-	114	6)
	解体工事	67	-	32	
	総計	1,692	635	816	
床面積 (㎡) 当たり 本体工事費 (万円)		62	59	62	7)
維持運営費 (億円/年)		46		22	8)
Post Olympic 需要見込 機能想定	サッカー	20		20	
	ラグビー	5	9) 年当り回数	5	10)
	陸上	11		11	
	コンサート	12		0	11)
コンサート (回/30年)		360	12)	0	a)
簡易ライフサイクルコスト試算 (30年)		3072	c)	1,482	13)

ザハ案と代替案の差異分析

14)	コンサート回数差異	360	12)-a)
15)	ライフサイクルコストの差異 (億円)	1,590	c)-13)
16)	1回当たりのライフサイクルコスト差異 (億円)	4.4	15)-14)
17)	コンサート1回当たり事業者負担 (億円)	1.1	
18)	コンサート1回当たり納税者負担 (億円)	3.4	16)-17)

¹ 手わたす会 (2014/1/27 資料)、

<http://www.detail-online.com/architecture/topics/london-2012-olympic-stadium-019389.html>

² 新国立競技場基本設計条件 (JSC2014Feb)

震構造で支持された可動式天蓋を採用している。一方、恒久的な客席に限定し屋根を設置する代替案は同構造が不要となることが見込まれている。

以上のことから、ザハ案と代替案のライフサイクルコストの差異は、主にコンサート機能のコストとして発生するものと想定して、試算条件を設定の上、コンサート1回当たりの納税者負担を簡易に試算することとした。

試算条件の設定

左表の番号毎に設定した試算条件を以下にします。

- 代替案の収容人員は8万人 (内2.5万仮設) とした。
- 延床面積はロンドンと同等とした。
- 全体屋根と免震構造は不要とした。
- 工事期間はロンドン実績に7ヶ月の余裕を加味した。ザハ案と比較し15か月の余裕があるので、工程的に新たな要項により再入札実施可能と想定した。
- 本体工事費はザハ案の床面積当たり本体工事費と同等とした (ロンドン実績より保守的な見積)。
- 周辺整備工事、解体工事費 (改修でも部分的に発生) は、ザハ案の見積もりを延床面積で按分した。
- 5) に同じ。
- 維持運営費はザハ案で想定されているものを床面積で按分した。維持運営費の明細は不明であるので、修繕更新費用が洩れている可能性がある (差が広がる方向)。
- JSC が開示している需要見込を引用した。
- 代替案でもサッカー、ラグビー、陸上の需要は同等とした。
- 代替案におけるコンサート需要は0とした
- 30年のコンサート需要見込を年間見込の30倍として設定した。
- 金利は無視し、工事費と維持運営費の30年分を簡易なライフサイクルコストとした。c) も同等の前提とした。
- 15)、16) とも、左表の計算式通り
- JSC のザハ案年間収入見込み50.6億円³を、イベント合計数48で除して算出した。
- 上記試算条件によれば、コンサート1回当たりの納税者負担は、1回当たりのライフサイクルコスト差異から事業者負担 (推定値) を差し引いて算出した。

³ 2014/3/14 蓮舫議員の「新国立競技場」に関する質問@予算委員会